

平成 16 年刊行の『給食マネジメント論』は、栄養士法の改正（平成 14 年 4 月施行）、新カリキュラム導入を受け、「給食経営管理論」のモデルとなる本をめざしたものであった。すなわち、マーケティングやシステム構築などの経営手法を取り入れて栄養管理を行う実践的教科書として誕生し、その後、法改正や給食を取り巻く環境、経済状態の変化に応じて、改訂を繰り返してきた。給食の経営管理に関する理論だけではなく、具体的な経営事例も掲載していたため、これまでに類を見ない給食経営管理論の教科書として評価、採用いただいていた。

しかし近年のグローバル化や少子高齢化、生産年齢人口の減少を背景として、給食の経営環境は大きく変化している。その一方で、給食利用者の嗜好やニーズは多様化し、管理栄養士・栄養士には限られた給食経営資源の中での効果的・効率的なマネジメント能力が求められている。さらに、医療や介護の場が施設から地域や在宅に伸張したことにより、給食を介した栄養管理や、食中毒・災害に対する危機管理のためには、今後、最新の栄養学・食品学・調理科学や AI（人工知能）、IT（情報技術）を活用した給食の生産管理が求められることになるであろう。

本書は上記のような視点から『給食マネジメント論』を見直して、新たなる教科書として刊行するに至った。また、各種特定給食施設の経営管理に関しては、先進的な事例を取り上げ、給食経営管理の展望を示すなど、より実践に即した内容としたことも本書の特徴である。管理栄養士・栄養士が行う給食経営管理の理念は、「食を通して人々と社会に貢献する」という揺るぎないものであるが、医療保険制度や社会情勢の変化により、給食経営の戦略・戦術は変わりうる。本書にはまだ課題も多いため、ご活用の皆様のご意見や新しい情報も取り入れて、社会から求められる良書にしていく所存である。本書が給食経営管理の発展に貢献できれば幸いである。

最後に、本書の出版にあたり甚大なご支援を賜りました第一出版代表取締役社長 加藤友昭氏、および編集部の皆様に御礼申し上げます。

平成 28 年 10 月

編 者